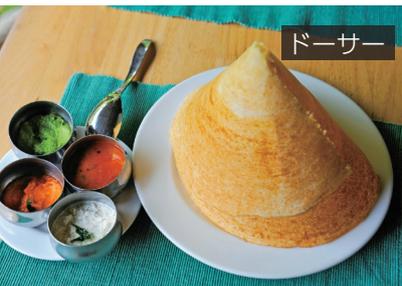




『高等学校 新地理総合』p.98 「1 小麦でつくられたチャパティをカレーにつけて食べる人々」(インド、デリー)



米粉と豆からつくられたドーサー



インドの食と 自然環境

インドの多様な食文化

インドの食文化は、広い国土(約329万km²、日本の面積の約9倍)の中、地域によって異なる自然環境や宗教分布を反映して、実に多様である。インド各地域における多様な食文化の例として、コルカタ(カルカッタ)を中心とするベンガル地方やムンバイ(ボンベイ)より南の海に面した地方での魚介料理、パンジャブ州や首都のあるデリーなど北インドではタンドリーチキンのような肉料理が挙げられる。また、南インドにはヒンドゥー教徒、グジャラート州にはジャイナ教徒が多いことから野菜料理も特徴的である。

多種多様な食を特徴づける要素は、「カレー」だ。カレーの語源には、ソースを意味するタミル語のカリ(kari)、カンナダ語のカリル(karil)がポルトガル人によって紹介され、英語圏に入って世界へ広まったという説がある。しかし、厳密に言えば諸説あり、確定はできない。ひとまず、カレーとはインドを中心として中近東から東南アジア、さらに現在では世界各国で広く食される、香辛料を混ぜ合わせて味付けされた料理と考えておけばよいだろう。香辛料を用いるのは、暑く湿度の高い地域で食欲増進や消化の促進、殺菌、発汗など健康を保つための工夫といえる。香辛料はペッパー(コショウ)、マスタード(粒カラシ)、ターメリック(ウコン)など何十種類にも及び、それらが料理に合うよう調合される。教科書の写真で取り上げられているチャパティは小麦、ドーサーは米から



『高等学校 新地理総合』(以下、教科書)の写真と地図帳の図版を使いながら、ワークシートを通して、地理総合における主題を追究していくコーナーです。第1回となる今回は、インドの食と自然環境の関わりについて探究します。

つくられるが、こちらは気候の違いに着目したい。

インドの自然環境と食文化の関わり

インドの自然環境を地域ごとに確認する。北東部のヒマラヤ山脈からガンジス(ガンガ)川とインダス川が流れ出す。ガンジス川の堆積物によってヒンドスタン平原が形成され、年降水量も1000mmを超えることから、稲作が盛んに行われる。パキスタンとの国境にあたる西部は大インド(タール)砂漠が広がる乾燥地域となっている。インダス川流域の地域では灌漑によって大量の小麦が生産されるようになった。インドの食文化は、大きくは気候を反映した、北の小麦を中心としたものと、南の米を中心としたものが、カレーという料理で結ばれたところに特色を見いだせる。

東京都江戸川区(西葛西)のインド人コミュニティ

20世紀の末頃に、コンピュータシステムの更新に対応するため、多くのインド人IT技術者が日本へやって来た。企業や官公庁が集中する都心地域に通いやすい江戸川区の西葛西駅周辺に暮らすインドの人たちが次第に増え、日々の食事にインド料理を求める声が高まると、彼らの中でインド料理店やスパイスを扱う店が現れるようになった。来日した人の中には日本国籍を取得し、江戸川区の区議会議員となった人物もいた。こうした経緯を知るとは、日印交流を考えるうえで大変興味深い。

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之

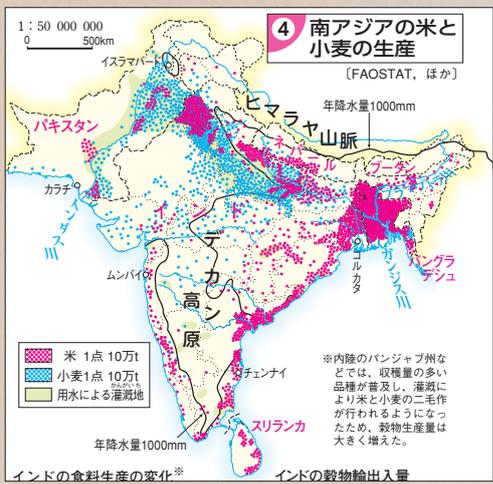


【新詳高等地図】*p.33 ~ 34

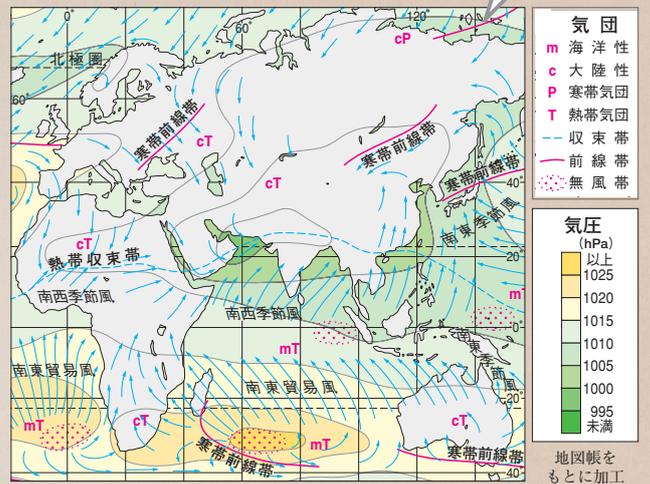
読み取りのポイント

- ①ヒマラヤ山脈から流れ出るガンジス(ガンガ)川がベンガル湾に注ぐまでに、さまざまな河川と合流することに着目する。
- ②インド半島は両岸に東ガーツ山脈と西ガーツ山脈が走り、中央部にはデカン高原が広がることを確認する。
- ③インド西部のパキスタンとの国境付近は乾燥地域で、大インド(タール)砂漠が広がることを確認する。
- ④土地利用の凡例から、稲作が盛んな地域を探し、河川に関連した地形の特徴や季節風が与える影響について考える。

これらは上記のように生徒に実際に地図帳に書き込ませながら確認させるとよい。



【新詳高等地図】 p.34 「④南アジアの米と小麦の生産」(一部)



【新詳高等地図】 p.144 「⑥世界の気圧と風向 7月」(一部)

読み取りのポイント

- ①年降水量 1000mm のラインのどちら側が 1000mm を上回る (下回る) か考える。
- ②米の収穫量が多い地域と降水量の関係を考える。
- ③ガンジス川の河口地域で米の収穫量が多い理由を、地形の特徴から考える。

読み取りのポイント

- ①7月のインド周辺において、どちらの方角から季節風(モンスーン)が吹いているか、着目する。
- ②『新詳高等地図』p.31 ~ 32 または p.33 ~ 34 で、①の風がぶつかる山脈を確認する。

3つの図の読み取りのポイント

7月(夏季)に南西からの季節風が西ガーツ山脈にぶつかり、風上側(西側)で雨を降らす。西ガーツ山脈の西側は年降水量 1000mm を超え、稲作に適している。小麦は年降水量 1000mm 未満の、インド・パキスタンにまたがるパンジャブ地方で生産が多い。インドの北の地域と南の地域で食文化が異なるのは、自然環境の違いによるところが大きい。

※すべて令和 4 (2022) 年度以降版